

第2回野島活性化検討委員会議事録

■開催場所・日時

令和7年7月16日（水） 14時30分から16時00分まで
防府市役所 本館2階 共用会議室2A

■次第

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議題
(1) 野島活性化検討委員会の開催スケジュールと各事業進捗について
(2) 野島活性化基本構想の基本理念や方向性について
(3) 野島活性化基本構想策定のための意見聴取の概要について
(4) アンケート等の素案について
- 4 その他
- 5 閉会

■出席者名簿（敬称略）

所属	役職名	氏名
防府市立野島小・中学校	教諭	林 隆一
一般社団法人防府観光コンベンション協会	専務理事	犬塚 要二
防府商工会議所	専務理事	松田 和彦
防府市社会福祉協議会	常務理事	熊野 博之
NPO法人防府市市民活動支援センター	センター長	京井 和子
防府市総合政策部	政策推進監	宮本 松典
防府市文化スポーツ観光交流部	部次長代理（観光振興課長）	藤本 奉文
防府市福祉部	部次長	伊藤 忍
防府市産業振興部	部次長	本間 良寛
防府市教育委員会教育部	部次長	松田 伸一

※欠席委員

野島地域自治会連合会 会長 松本 和郎

（開会）

議題（野島活性化検討委員会設置要綱第5条により委員長が進行）

議題1 野島活性化検討委員会の開催スケジュールと各事業進捗について

【事務局説明】

資料1をもとに、今後のスケジュールと各課所管の事業の進捗状況を説明。

——質疑・応答——

【A委員】地域おこし協力隊が1名応募あるということだが、その方で決定なのか。

【事務局】各種審査を経てから、採用を決定する。不採用だった場合は、再募集をする。

【委員長】茜島シーサイドスクールの学校開放の集いの募集状況はいかがか。

【事務局】本日現在ではまだ、申し込みはない状況で、想定では学期末の保護者会等を踏まえて、今後申し込みがあるのではないかと考えている。

【C委員】学校開放の集いに定員はあるのか。

【事務局】小・中合わせて10名程度で、今は市内に限っているが、今後、変更も視野に入れる。

【D委員】活性化っていう意味合いは、交流を中心に展開しているが、定住という視点は考えなくてもよいか。

【事務局】この度は、交流を主に考えていきたい。

【B委員】学校開放の集いを含めて、来て欲しい児童・生徒の想定はあるか。

【事務局】「野島の自然環境で学びたい、自然環境を活かした学びを野島小・中学校では展開しています」と周知している。そういった体験活動を通して学んでいきたいという意欲を持った児童・生徒が来てくれたらいいと考えている。

【C委員】市外のお子さんたちは、波がひどいときなど、その辺がネックになるのか。

【事務局】市外からは、防府駅が交通の拠点となるのでまずそこに来ていただいて、そこからバスでの送迎を考えている。荒れたときは、向島小学校になるので、バスでの送迎を考えている。

議題2 野島活性化基本構想の基本理念や方向性について

【事務局説明】

資料2、3をもとに、野島活性化基本構想を作成する上で、大切に考える考え方や基本構想の方向性について事務局の案を提示した。

———質疑・応答———

【C委員】空家の改修の検討について、仏壇があったりとか、家財道具あったりするが、簡単に解決しないような場合はどのように考えるのか。

【事務局】空家は、所有者を特定するなど色んな問題があるので、すぐ簡単に解決できないが、基本構想の中にどこまで載せられるかを検討し、いただいたご意見は庁内で情報共有したい。

【A委員】野島には今の生活を変えたくない方がいらっしゃる。空家に関しては、10年前は、お盆の時などに親戚とかが集まるときに使うため、売ろうとしなかった。最近は変わってきたが、もう空家を手放そうとしても、売れない。空家バンクが、そういうのをうまく利用すれば、交流人口を増やしていく中で、野島も住んでみたいっていう方も、増えてくる可能性はある。野島は、非常に不便ではあるが、不便だから、いろんなことができる。

【C委員】市内の小・中学校との交流はどうかとか。野島だからできるっていうことが結構あるし、市内の学校の生徒たちは今から部活が地域に落ちてくるので、その辺を踏まえた上で、何かできればいいと思う。総合授業の中で、持続性が高く、継続的な授業を皆さんと考えていければいいと思う。

【A委員】学校間の交流は、過去にいくつか行った。基本的に同規模の学校で、規模があまり違うと難しい。直接行ったり来たりするのが一番いいが、難しい場合は、市外の学校とICTを使って交流する。

【C委員】野島の伝統行事はどんなものがあるのか。

【A委員】神社とかお寺に関わることが多いが、どんどん縮小されている。維持するのが難しくなっている。できることに限っては、学校も参加している。

【B委員】具体的な事業というのは、この地域おこし協力隊が、やっていくっていうようなイメージなのかそれとも行政の方がやるのか、地元の方がやるのか。

【事務局】イメージできるように方向性に沿った事業をいくつか載せているが、検討中である。

【B委員】例えば学校行事の運動会にみんなで応援に行きましょうというようなところから入らないと、ハードルを高くしてイベントをすると地域おこし協力隊の人がしんどい。

もう1つは、行政に頼るのではなくて、野島ならではの産業をもう1回再構築していくことが必要だ。徳島の葉っぱビジネスのように、野島では、寮母さんが地元の料理を作ってあげることでそこで収益が生まれるというような、何かそういう循環を作るといい。茜島シーサイドスクールを通したビジネスを生み、持続可能なものにし、それをまた逆に力にしてその魅力を発信することによって野島で学んでみようということになるのではないかな。

【事務局】構想とも骨子とか作っていく上で考えていきたい。

【D委員】人口が5年すればもう、50人切るくらいの状況である。いろんな交流の施策を打つのはいいが、「地域と一緒に交流しましょう」と言っても、その地域がなくなる可能性があるのも、そこまで見据えて、考えた方が良く。地域おこし協力隊を呼んで、そこで、交流だけするのではなくて、今言われたように産業とか何とか可能性があるのであれば、そういうチャレンジをする人を引っ張ってこない、島自体の存続が危ない状況だと思う。このままだったら本当に人口が減るのをそのまま見ていくような格好になるので、ひと工夫、先導役は絶対要と思う。先導役をどうやって、どういう方にするかとか、島外の方から、島を愛する団体の方をくっつけてコーディネートし、パワーをつけるとか、先導役をまず作る必要があると思う。

【B委員】教育のカリキュラムで、茜島シーサイドスクールに行くことによってスキューバダイビングなど、何か資格が取れると面白い。防府天満宮のある市っていう形で、港から見ればちょうど天満宮があるから、天満宮が見守る島っていうようなイメージに加え、資格取得があると、発信しやすい。

【A委員】自然が多いという、これはもうどこでもいえるから、当たり前ということなので、自然プラス、何かアイデアがあるといい。例えば、瀬戸内海のある島で島民は7人しかいないが、「漫画の島」を始めた。家の壁に色んな漫画家に漫画を描いてもらってそれを見に行きたいという人がいて、そこで産業などができればいいと思う。

【C委員】シーカヤックとか、自然体験で書いてあって、あと、ボートとか、そういう海に関わるものを、中学校のうちに体験して、高校、国体を目指すとか。そういうのを育てるとかっていうのも面白い。何年前か、「お魚まつり」朝市を月1回やっていて、結構行かれる方がいた。

【D委員】野島で郷土料理食べたり、魚を売ったり、いろいろ盛り上がっていた。行政の方はやりたかったが、野島の方が高齢化で対応できず、消滅していった。

【E委員】学校の宿泊施設の2次利用とは、島民の方も島外の方も利用できるようなイメージでよいかな。

【事務局】相互の交流ということも想定して検討したい。

【E委員】茜島シーサイドスクールと言うと、学校関係だからと思って一般の方が行きづらくなるかもしれないので、見せ方の工夫が必要と思う。

【F委員】ソフト事業にはハード面がないといけないと思う。その中でも、野島のポイントとなる、港、学校、海水浴場のような拠点を面で捉え、ポイントだけではなくて、その間の空間を誘導するような仕掛けづくり、楽しめるような空間で考えた誘導も含めたハード整備を位置付ける必要がある。

【G委員】野島海運のダイヤは、島民の方の生活、観光客、釣り客、或いは茜島シーサイドスクールの親御さんなど、それぞれの都合など、いろんなものを考えないといけないので、調整が難しい話だと思うが、どのように進める予定なのか。

【事務局】ダイヤの改正は島民の生活に影響があるので、ニーズ調査する。その上で必要があれば、基本構想に載せる可能性がある。

【G委員】島民生活を大切にしながら、野島に来て欲しいという雰囲気を出すのであれば、こどもたちが学校に毎日来るのに、気持ちが上がるとか、帰るときにまた明日、楽しみにできるような、ウェルカム看板のようなものがあればいいと思う。こどもたち、島民の方、観光客とか釣り客の方の気持ちが良くなる仕掛けをするとよい。

【B委員】基本的に誰のためになのかという目的を持たないといけない。こどもたちがしっかりそこで学べるとか、課題を抱え、そこが解決の場所になるということもたちのため、こどもたちがしっかり学ぶためにはきちっとその生活ができる場所を作っておける。生活できるための場所を作っておける人を運営する人、その人が生活できるような組立てが必要だ。

【B委員】マツダ、BSさんでマイスターズっていう技術専門家のような人が特別に教えに来るような、最新技術が学べるようなカリキュラムをすると発信しやすい。

【事務局】こどもたちのためというところを踏まえて考えたい。

【G委員】先ほど面的なハード整備という話が出たが、交流をメインに考えるのであれば、どうしても最初は元気な高齢者に来ていただいて、遊んでいただくとか、歩きやすいような道を整備するなど、高齢者向けの向島にあるような健康遊具の設置も1つのやり方と思う。

【事務局】高齢者が楽しく散策をしていただけるようなことも考えていきたい。

【C委員】野島は道に入っていくと景色が面白い。高齢者の健康イベントは、島民の方が元気になるようなイベントを組み立てて、そこにこどもたちが手を貸すっていうのも面白いと思う。

議案3 野島活性化基本構想策定のための意見聴取の概要について

議案4 アンケート等の素案について

【事務局説明】

資料4と5をもとにアンケート調査や聴取り調査に関する概要を説明。

——質疑・応答——

【C委員】県立大学の学生と先生が島で聴取り調査をするにあたり、アンケートと同じ項目だけでは聴き取れないことがあると思う。その時に、高齢者の方が今までどんなことをされていたとか、隠れた才能をお持ちの方たちが、私たちが知らないだけで自治会には眠っていることがあるので、背景を深掘りするような調査をしたら、野島に対してできることが増えるのではないかな。

【事務局】了解した。

【A委員】県立大学の聴取り調査をいつ頃やるのか。

【事務局】調整中だが、1泊2日を想定し、8月から9月の間で行う。

【A委員】8月29日か30日には、野島小・中学校の児童・生徒が学校で宿泊体験をするので情報共有しておく。

(閉会)